

「マーケットの浅読み・深読み」

発行・編集:FXニュースレター

執筆担当:斎藤登美夫



◆◆◆ No.0531 ◆◆◆

19/04/24

【 早くも関心集める 5 月の「欧州議会選」 】

2 月 20 日の当レターで、筆者は「今年は欧州中心に世界的な『選挙イヤー』」とレポートした。ちなみに、年内の主な選挙日程を列挙したうえ、取り敢えず間近に迫っていた「3 月・ウクライナ大統領選」と「4 月・スペイン総選挙」を取り上げていたので、関心のある方は是非ともバックナンバーを当たっていただきたい。ウクライナ大統領選は「コメディ俳優」の勝利で終了したが、スペイン総選挙は今週末。ただ、最近取材した感じでは、前回レポートとそれほど情勢に変化はないようだ。一方、今回の当レターでは、それらを踏まえうえて、早くも市場の関心を集め始めている「5 月の欧州議会選挙」について、一度レポートしておきたい。

◎「EU 懐疑派が 3 分の 1 議席獲得できるか」に注目

5 年に一度実施される「欧州議会選挙」は、世界最大級の選挙だ。なにが「世界最大級」なのかというと、有権者数。その数は EU 加盟 28 カ国（英国含む）で、ザックリ 4 億人にのぼると言われている。

有権者数のほか、最初に選挙そのもののベーシックの部分指摘しておく、トータルの議席数は 751。議席数は人口に応じて国ごとに割り当てられており、もっとも多いのはドイツの 96 議席、逆に少ないのはルクセンブルクやキプロスなどの 6 議席となっている。なお、先で議席数を 751 と記述したが、英国が選挙前に EU を離脱すれば議席数は 705 に削減される予定。ただ、現段階では選挙日程までに英国が EU 離脱できるとは思われず、751 人を選ぶ形になる公算が大きい。また、投票は加盟国ごとに実施され、今回でいえば 5 月 23 日に英国とオランダで始まり、26 日まで実施される。最終日の 26 日にはドイツやフランスなど 21 カ国で行われる見込みだ。

そんな「欧州議会選挙」について、いささか古い話となるが、当の欧州議会が 3 月 1 日、各国の世論調査をもとに「投票見通し」を公表している。それによると、現在、欧州議会で「与党」を形成している中道右派の「欧州人民党グループ」や中道左派の「社会・民主主義進歩連盟グループ」に厳しい見通しで、最大会派である前者は保有議席 217 から 36 議席失い、181 議席となるほか、議会運営上の連立を組む後者も現有の 186 議席から 135 議席（51 議席減）に縮小する一と予想されていた。つまり、最悪のケースでは、「与党 2 党」を合わせても、議会の過半数に届かない可能性も取り沙汰されていることになる。

それに対して、逆に躍進が予想されているのは、いわゆる「EU 懐疑派」。その代表格とされる民族派・極右グループ「国家と自由の欧州」は 37 から 59（22 増）まで議席数を伸ばすと票読みされていた。また、最近の民間機関の見通しでは、イタリアやハンガリー、フランス、スペインの極右政党など EU に懐疑的な勢力が「難民問題」を背景に支持を全般的に拡大させているとされ、これらの勢力を合わせると全議席の 3 分の 1 を確保する勢いだとも言われている。

いずれにしても、それぞれの政党の獲得議席数がポイントとなるのは間違いないが、なかでも「とくに」となると、先で指摘した「与党 2 党が過半数を獲得できるか否か」と、「EU 懐疑派が 3 分の 1 議席を確保するかどうか」の 2 点に注目だ。欧州議会の場合、法案の多くは過半数で可決や否決が決定されるが、なかには「3 分の 1」の賛成や反対によって決まるものも存在する。したがって、仮に EU 懐疑派が 3 分の 1 程度の議席を獲得した場合、EU 統合にブレーキとなるばかりか、政策決定や実行に大きな障害となる可能性も否定できない。獲得議席数如何によっては、EU 統合どころか分裂に向けた終わりの始まりとなる危険性もあるだけに、ユーロ相場などに与える影響も含め、いまから少しずつ警戒を有しておきたいところだろう。（了）

*** お知らせ:大変恐縮ですが、来週の当レポートは発行をお休みさせていただきます。次回のレポートは 5 月 8 日(水)付となります。よろしくお願いいたします ***



当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。

なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

